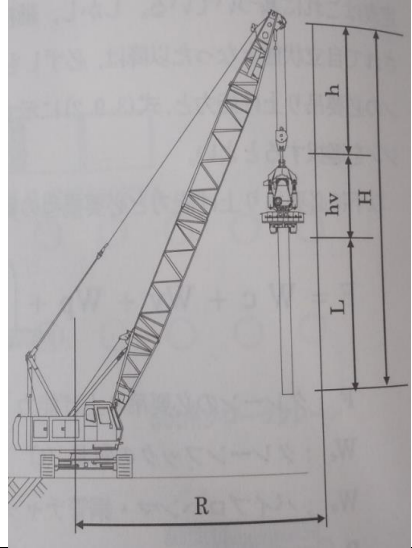
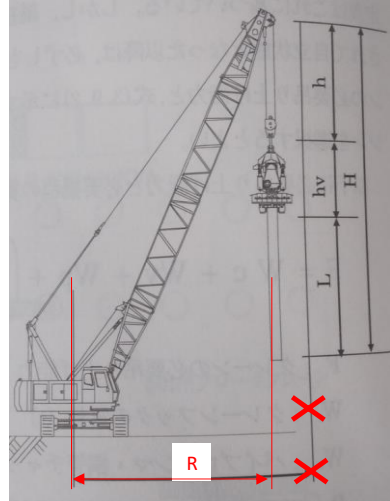
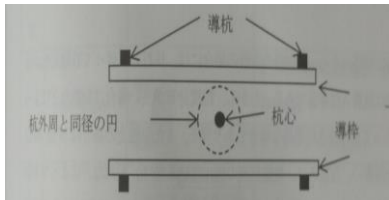
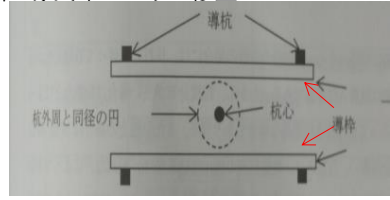


2019年6月版 修正表

番号	項目		頁	修正箇所	現記載	修正後の記載
	中項目	小項目				
1	1.1.2鋼管杭・鋼管矢板	3. 鋼管矢板の特長	7	小項目本文3行目		
	4.1.2継手の種類		341	小項目本文1から2行目	P-P型 L-T型 P-T型	P-P形 L-T形 P-T形
			342	表-4.1.1		
	4.2.1概要		343	中項目本文5行目	P-P型	P-P形
			344	表-4.2.1	P-P型	P-P形
	4.3.5構造細目	1. 飛び継手の取付け方 2. 継手形状	377	図-4.3.12の*説明文	L-T型 P-T型	L-T形 P-T形
			377	小項目本文1から2行目	P-P型 L-T型 P-T型	P-P形 L-T形 P-T形
2	1.1.3コンクリート	3.(3)3④アルカリ骨材反応	25	④の標題	④アルカリ骨材反応	④アルカリ骨材反応(アルカリシリカ反応)
3	1.2.7土の基本的性質	1.土の構成と物理量 ⑥含水比	41	小項目1行目	含水比は、土の間隙の中に含まれている土粒子の質量に対する水の質量の比を示すものである。	含水比は、土粒子の質量に対する間隙の中に含まれている水の質量の比を示すものである。
4	1.2.7土の基本的性質	4.(3)破壊基準	47	図-1.2.23◎の名称	(c)粘土	(c)飽和した粘性土
5	1.7.3品質管理と品質保証	4.品質に係る重要用語 (8)性能保証と仕様保証	125	小項目3行目	・・・仕様書・設計図書に基づき示された・・・	・・・仕様書・設計図書に基づき示された・・・
6	共通引用文献	出典	126	出典1-⑩改訂版発刊年月	小規模建築物基礎構造設計指針(2014年9月)	小規模建築物基礎設計指針(2008年2月)〔2014年は増刷の年月のため、第1版の出版年月に修正〕
7	2.1.1杭基礎設計の概念	2.杭の抵抗機構(1)浅い基礎と深い基礎	129	小項目本文4行目(最終行)	Df/B≦1.0を浅い基礎、Df/B>1.0を深い基礎とされており、	Df/B≦1.0が浅い基礎、Df/B>1.0が深い基礎とされており、
8	2.1.1杭基礎設計の概念	3.設計の概念	131	小項目本文4から6行目	「建築基準法施行令第38条第1項：建築物の基礎は、建築物に作用する荷重および外力を安全に地盤に伝え、かつ、地盤の沈下または、変形に対して構造耐力上安全なものとしなければならない。」	「建築基準法施行令第38条第1項：建築物の基礎は、建築物に作用する荷重及び外力を安全に地盤に伝え、かつ、地盤の沈下又は変形に対して構造耐力上安全なものとしなければならない。」
9	2.1.2基礎の区分		132	中項目本文2行目	基礎には杭基礎、柱状体基礎、直接基礎、ケーソン基礎等があり、	基礎には杭基礎、柱状体基礎、直接基礎等があり、ケーソン基礎等があり、
10	2.2.2地盤により決まる押込み支持力	2.支持地盤の選定と支持力	142	小項目本文13行目(最終行)	設計に当たっての地盤	設計にあたっての地盤
11	3.1.1施工体制	1.監督員(工事監理者)	165	小項目本文1行目	工事を・・・工事監理を行う者いう。	工事を・・・工事監理を行う者をいう。
12	3.3.2仮設・準備工	2.作業ヤード(2)各工法の作業ヤード	177	図-3.3.2の工法名	中掘り工法(セメントミルク噴出攪拌方式)	中掘り杭工法(セメントミルク噴出攪拌方式)

2019年6月版 修正表

番号	項目		頁	修正箇所	現記載	修正後の記載
	中項目	小項目				
13	3.5.3施工管理	6.施工記録(2) 施工管理チェックシート	222	表-3.5.7の確認者名	工事監理者	<u>監督員(工事監理者)</u>
14	3.5.3施工管理	6.施工記録(2) 施工管理チェックシート	222	表-3.5.7の工法名	中掘り工法(セメントミルク噴出攪拌方式、機械攪拌方式)	中掘り <u>杭</u> 工法(セメントミルク噴出攪拌方式、機械攪拌方式)
15	3.5.3施工管理	6.施工記録(2) 施工管理チェックシート	223	表-3.5.8の確認者名	工事監理者	<u>監督員(工事監理者)</u>
16	3.5.3施工管理	6.施工記録(2) 施工管理チェックシート	223	表-3.5.8の工法名	中掘り工法(セメントミルク噴出攪拌方式、高圧噴出方式)	中掘り <u>杭</u> 工法(セメントミルク噴出攪拌方式、高圧噴出方式)
17	3.5.3施工管理	6.施工管理(3) 不具合発生時の記録	224	表-3.5.9の施工者内の名前	元請 杭工事	<u>元請技術者</u> <u>杭工事管理者</u>
18	3.6.3施工管理	5.施工管理の留意点(6)逸水層への対処	242	小項目9行目(下から2行目)	・増粘剤の増量等を含めた・	・増粘剤、 <u>ベントナイト</u> の増量等を含めた
19	3.6.3施工管理	6.施工記録(2) 施工管理チェックシート	244	表-3.6.4の確認者名	工事監理者	<u>監督員(工事監理者)</u>
20	3.7.3施工管理	5.施工管理の留意点(2)回転貫入時の施工管理	258	小項目の標題と本文2行目、3行目	3) 施工管理トルク	3) 施工 <u>制限</u> トルク
21	3.7.3施工管理	5.施工管理の留意点(3)支持層の確認と打止め、1)支持層の確認方法	259	本文[試験杭における支持層確認時の留意事項]の5行目	・杭の回転速、付加する押込み力など・・・	・杭の回転速 <u>度</u> 、付加する押込み力など・・・
22	3.7.3施工管理	6.施工記録(2) 施工管理チェックシート	263	表3.7.5の確認者名	工事監理者	<u>監督員(工事監理者)</u>
23	3.8.2施工法	2.ハンマ打設(2)打込み時の杭体の打撃応力	272	272頁本文3行目	・・・が宇都 <u>冬</u> 木らにより・・・	・・・が宇都 <u>・冬</u> 木らにより・・・

番号	項目		頁	修正箇所	現記載	修正後の記載
	中項目	小項目				
24	3.9 バイプロハンマ工法	3.9.1 一般	286	図-3.9.5	Rの寸法線の位置 	下図の赤字の通り修正 or 不要 
25	3.9.2 施工法	1.鋼管杭の建込み	289	図-3.9.10	導杭を指し示す矢印 	下図の赤矢印のように修正 
26	3.9.2 施工法	1.鋼管杭の建込み	289	小項目本文2行目	・・・を考慮して、各単管に吊り金具を取付けることが望ましい。	・・・を考慮して、各単管に吊金具を取付けることが望ましい。
27	3.9.3施工管理	6.施工記録(2) 施工管理チェックシート	293	表-3.9.7の確認者名	工事監理者	監督員(工事監理者)
28	3.10.1 現場溶接継手	5.継手の形成(4)目違い	299	小項目本文1から2行目	「なお、・・・値である。」を削除する。	
29	3.10.1 現場溶接継手	5.継手の京成(4)目違い	299	表-3.10.5	表の下に以下の文章を追記 ①表-3.10.5はJIS記載の製品に対する「換算外径差」の数値を使用している。②「換算外径差」とは単管(製品)の外周長の差を円周率 π で除した値である。	
30	3.10.1 現場溶接継手	6.溶接作業(2) 溶接作業	300	3) の項目名	3) 3層盛以上の溶接	3) 3層目以上の溶接
31	3.10.3 杭頭処理	1. ずれ止め	308	表-3.10.12	幅b	幅b (mm)

2019年6月版 修正表

番号	項目		頁	修正箇所	現記載	修正後の記載
	中項目	小項目				
32	3.11.3 トラブル事例	4. トラブルの対処・対策(1) トラブルの対処	327	小項目本文2行目	別の杭芯箇所	別の <u>杭心</u> 箇所
33	3.11.3 トラブル事例	3. トラブルの原因	333	小項目本文1行目	図-2 に示す <u>示す</u> ように	図-2 に示す <u>示す</u> ように
34	4.2.2構造形式	2.施工方法による分類(2)立上り方式	346	小項目本文1行目	鋼管矢板を水面上、 <u>または</u> 地表面まで・・・	鋼管矢板を水面上、 <u>または</u> 地表面まで・・・
35	4.2.3鋼管矢板基礎の施工	2.施工法(3)鋼管矢板継手の処理工	355	図-4.2.22		
36	4.2.3鋼管矢板基礎の施工	2.施工法(9)頂板コンクリート工および躯体コンクリート工	358	小項目本文2行目	換気等の安全管理を十分行わなければならない。	換気等の安全管理を十分 <u>に</u> 行わなければならない。
37	4.2.4施工管理	2.試験杭	360	小項目本文121行目(最終行)	基礎1基につき数本の試験杭の施工を行うのが <u>良</u> い。	基礎1基につき数本の試験杭の施工を行うのが <u>よ</u> い。
38	4.2.4施工管理	3.打止め管理(2)中掘り杭工法の場合	361	小項目本文2行目	鋼管杭と同様 <u>な</u> 管理となるので、	鋼管杭と同様 <u>の</u> 管理となるので、
39	4.3.3鋼管矢板壁の施工	2.施工機械および設備機器	370	表-4.3.1	適用 <u>矢板</u>	適用 <u>鋼管径</u>
40	4.3.3鋼管矢板壁の施工	3施工法(1)初期圧入1)一般	372	図-4.3.7	3番目の図の題「(3)マスト部を組立て」	「(3)マスト部 <u>の</u> 組立て」
41	4.3.3鋼管矢板壁の施工	4特殊条件下での留意事項(2)高天端施工	375	小項目本文1行目	突出長が大きい高天端 <u>作業</u> では	突出長が大きい高天端 <u>施工</u> では
42	4.3.5構造細目	1.飛び継手の取付け方	377	図-4.3.12	図中の記述「飛び <u>爪</u> 」	「飛び <u>継手</u> 」
43	5.2.6施工の安全	2.作業工程	397	表内「オーガ掘削」6行目	・土砂を落とす場合には、 <u>オーガ</u> へ巻込まれな・・・	・土砂を落とす場合には、 <u>オーガ</u> へ巻込まれな・・・
44	5.2.6施工の安全	2.作業工程	398	表内「杭の吊込みおよび建込み」21行目(下から2行目)	・作業の開始は杭打ち機の <u>リーダー</u> に他の作業員・・・	・作業の開始は杭打ち機の <u>リーダ</u> に他の作業員・・・

2019年6月版 修正表

番号	項目		頁	修正箇所	現記載	修正後の記載
	中項目	小項目				
45	5.3.2杭打ち機の安定度		404	中項目本文14行目 (下から3行目)	・・・使用条件を杭打機 <u>メーカー</u> に提示し・・・	・・・使用条件を杭打機 <u>メーカー</u> に提示し・・・
46	5.3.2杭打ち機の安定度	1. 重機の安定度の求め方	407	表「重心位置の計算」	表中の語句「 <u>カウンターウエイト</u> 」	<u>カウンターウエイト</u>
47	7.1.1定義		471	表-7.1.1内の建設工事の定義	・・・工事など <u>28</u> 工事をいう。	・・・工事など <u>29</u> 工事をいう。